

# かけはし

## 重点教育目標

「自分の考えをもち、適切に  
伝えることができる生徒の育成」

第 8 号

令和 5 年 1 1 月 1 日 (水)

子どもたちが失敗を乗り越え、歩いていくために

校 長 長谷川 秀雄

先月後半に、インフルエンザ罹患により3学級が学級閉鎖となりました。今週に入り、罹患者や発熱等で欠席する生徒は減少し、学校全体で落ち着いてきました。10月は、授業参観、学年懇談会、PTA茶話会など、多くの保護者の皆さんに、学校に足を運んでいただき、ありがとうございました。今月末には、「2者・3者懇談」を計画しています。保護者の皆さんにとっては、時期的にご多用と思いますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

さて、北海道校長会だよりに載っていたお話をご紹介します。

「…高校受験に失敗して進学先がなくなってしまった私は、両親の勧めで、行く先も決めずに飛行機で旅に出かけました。機内で、中学生の一人旅を心配したCA（キャビン・アテンダント）さんに声をかけられると、受験に失敗したこと、両親に勧められて飛行機に乗ったこと、パイロットになりたいと思っていたこと、でも受験の失敗でそれが叶いそうになくなったことなど、堰を切ったように一気に話しました。するとCAさんは、着陸したら最後に降りるようにと私に言いました。どうせ行くあてもないし、大好きな飛行機に少しでも長く乗っていられると思い、私は言われるままに座席で待っていました。周りの乗客が降りたあと、CAさんから案内された先は、機長と副操縦士の方がいるコックピットでした。驚いている私に、二人のパイロットはこんな話をしてくれました。

『長いこと飛行機に乗っていたら、いい天気ばかりじゃなくて、嫌になるぐらい悪い日もあるんだ。でも、いつかは必ず晴れる日が来る。今君は嵐の中にいるかもしれないけど、いつかは必ず風も雨も止むから、そのときにすぐに飛び立てるように、しっかりと準備をしておくんだ。嵐の中の準備は大変だけど、晴れた日よりはずっといい準備ができるんだよ。なぜなら、いろいろな想定をしなければならないからね。こんなすごい嵐の準備は君にしかできない。だから君は幸運なのかもしれないよ。いつか一緒に飛べる日を楽しみに、空で待ってるよ!』

私はこの言葉に完全にノックアウトされました。帰りの飛行機から見えた眼下に広がる街並みはとても小さく、受験失敗なんてとてもちっぽけな悩みに思えました。そしてこの旅で、私の空への思いは「あこがれ」から「目標」に変わったのです。あれから40年たった今でも、パイロットとして奄美大島の上空を飛ぶたびに、あの日のことを思い出します…。』

受験を失敗した中学生が、CAさんの声かけと配慮、そしてパイロットさんたちの助言などにより気持ちを切り替え、その後の人生を目標に向かって歩いていったお話です。失敗にはたくさんの成功へのヒントが埋もれていると私は思います。失敗をそのままにしておく失敗にしかありません。失敗を今後どう生かすのか、失敗を失敗のままにしておかないためにも、私たち大人の役割は大きいと感じました。